

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘 (ひまわりユニット)		
所在地	小樽市住吉町5番22号		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	平成 31 年 4 月 15 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172000655-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000655-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成31年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりの丘は、小樽総鎮守の住吉神社の側にあり、近所には小樽運河やオルゴール堂など小樽を代表する観光名所があり、大変賑やかな地域にあります。また、市立病院や協会病院といった総合病院が徒歩圏内にある為、安心して生活出来る環境になっています。一人ひとりの意思や尊厳を大切に、家庭的で楽しく、安らぎのある生活が送れるよう、利用者様と職員が共に支え合っています。利用者様、そのご家族の方がいつも安心して生活が送れるよう、職員一同サービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、歴史ある観光名所の運河や堺町メルヘン通りを少し登ったところに位置し、静かで海の風が感じられ、公共交通機関や総合病院も近くにあり恵まれた環境にある。食堂と居間は広くて明るく、食事スペースとくつろぎスペースに分け広さを生かし、テーブルやソファ、テレビ、観葉植物等を配置し、季節に合わせた手工芸品や行事の写真等を飾って、利用者はぬり絵や将棋を楽しみながらくつろいでいる。駐車場は広く、敬老会には地域住民や利用者、家族、他のグループホームの方々等、100名程が集まるイベント会場として開放され、35名程のボランティアによるひよっこ踊りや、近くの幼稚園児が集まり、利用者との交流を深め、利用者家族にとっては楽しみの一つとなっている。職員は法人が導入した外部機関の人材活性化プログラムを用いて、内面的ケアのカウンセラーを受けて、職員からは高い評価を得ており、ケアに専念できる環境が整っている。事業所と大型総合病院、地域住民との連携で、事業所内に併設した「北海道介護福祉学院」があり、介護職員の人材確保に貢献しており、この教室は研修会場にもなっていて、地域住民の研修や交流の場としても活用している。職員は理念、信念に基づき、家族的な雰囲気の仕事所を目指し、全員でその取り組みを行い、努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの利用者様と向き合い地域の方々との連携を理念に取り入れ管理者及び職員はそれを共有しています。	理念は玄関と各ユニットに掲示し、パンフレットにも掲載している。家族的な雰囲気がある事業所を目指し、職員はミーティング等で理念を共有し、サービス向上に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の方がボランティアとして施設に手伝いに来て下さるなどで交流しています。	町内会に加入し、地域の一員として祭りの手伝いを行ったり、子供みこしの休憩所に駐車場を開放するなど、町内行事に参加し交流を深めている。幼稚園児が来訪し、利用者にとって楽しいひと時を過ごしている。事業所主催のイベントには、駐車場を開放し、屋台等が出て利用者や者家族、地域住民等との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、介護職員を養成する養成校が建物内にあり、介護職員の育成に力を入れています。また、認知症サポーター養成講座等を実施し、地域貢献に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、サービスについての評価や改善を伺い、意見を反映させるよう行っています。	地域包括支援センター職員、町内会役員、地域住民、利用者家族などが出席して年6回開催している。運営状況、行事などを報告し、意見や助言等を得てサービス向上に活かしている。要望や意見などは、検討して速やかな対応に心がけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と密に連絡を取り、事業所の実情を都度報告、相談しています。それに対する、助言等を実施しています。	市主催のグループホーム協議会には、毎回出席し、市担当者とは利用者の状況や運営などを報告、疑問点などについて指導を受けながら情報交換をしている。身寄りがない、認知の度合いで契約行為ができないなどによる成年後見人制度の利用が必要なケースについては、担当部署と連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を中心に、普段から身体拘束に該当する行為が無いかどうかを注視しています。また、内部研修等を行い、職員に対して啓発活動を行っています。	身体拘束廃止委員会を設置し、拘束となる行為とそれに伴う弊害は、勉強会やミーティングで全職員が共通理解して、身体拘束をしないケアに努めている。家族には契約時に拘束に関する書類を明示し説明している。人感センサーを使っている利用者はいるが、家族の同意を得ている。なお、安全上、夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等を通して、職員一人ひとりに教育を行い、各ユニットリーダーが中心になり虐待防止に努めています。		

グループホーム ひまわりの丘（ひまわりユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度についてを、職員研修で学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に対し、契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明をしています。また、不明な点があった場合は随時説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは生活の中で都度、意見をお聞きしております。ご家族に対しては面会時や電話連絡で意見を伺っております。意見のあった内容については早急に対応出来る体制を取っています。	利用者の意見や要望は日々の会話などから把握し、家族とは来訪時や電話等で意見や要望を聞くように努めている。管理者と職員は情報を共有し、検討を行い共通理解を得て、運営に反映している。	グループホームコミュニティ広報誌（9事業所共同掲載）を定期的に利用者家族に送付して、情報提供しているが、この広報誌以外に事業所独自の広報誌を企画して情報を提供し、運営推進会議議事録を家族に送付する時に、無記名アンケートを同封して、意見、要望などを聞いて運営に反映させることができるよう期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談の機会を設け意見を伺っております。その他、月一回の職員会議で意見を伺っています。日常的に職員が意見の言い易い環境作りを心掛けていますが、それでも十分ではない為、外部機関に委託をし、メンタルヘルスに取り組んでいます。	管理者は職員が日頃から話しやすい雰囲気を作り、会議や個人面談、アンケートで意見や要望、提案を話し合い、運営に反映させている。外部[機関]による人材活性化プログラムを活用し、仕事上のストレスや不満等を専門カウンセラーに年1回の定期面談と月1回のアンケート調査で、職場のメンタルヘルスに取り組み、職員から好評を得ている。この結果が運営に反映され、業務の流れや定着率が良くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、個別の面談を行っています。また、毎月1回労働環境について不満がないかや、やりがいを持っているか、目標等についてのアンケートを行っています。そこで、出た内容の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修会へ参加を促し、出来るだけ多くの職員が参加出来るよう調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内GH協会の親睦会等に参加し、意見交換等で親睦を深めています。また、姉妹法人と、合同の行事や研修等を通して交流の機会を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、ご本人の要望や生活歴を十分考慮し、ご本人らしさを尊重しながら不安なく過ごしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族の意見や要望を聞き、それに応えられるよう、サービス内容に反映し、協力体制が取れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階において、利用者様やご家族の現状を把握し、優先すべき事柄から解決していけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望を考慮した上で、軽作業等に参加して頂き、役割意識を持ってもらえるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各種行事に参加して頂いたり、面会の際に日々の状況を報告し、共に支援し合える関係が築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿って、馴染みの人や馴染みの場所へ関わられるよう努めています。	家族や知人などが来訪した時は、利用者の落ち着ける場所で寛げるよう、職員は「おもてなしの心」を心がけながら対応している。買い物や美容室、お寺、教会等へは一緒に出かけて、馴染みの関係が途切れないよう支援している。誕生会では、地元の食べ物を出して、懐かしさを提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や意向を踏まえた上で、生活で孤立することのないよう、他利用者様との仲介や、関わりを多く持つよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、入院先等にお見舞いに行ったり、関係者には情報提供し共有出来るようにしています。ご家族との関係を大切に、必要に応じて相談を聴くなどして支援するよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の言葉や、表情や態度を情報として捉え、可能な限り実現出来るよう支援しています。	入居時の聞き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握しているほか、日々の会話、表情、利用者家族の情報などから、思いや意向を把握し、ユニット会議や申し送りノートで共有して、利用者の思いや意向に添うよう努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方、入居に至るまでの経緯等を把握し、今までの生活に近い環境になるよう努めています。また、安心して自分らしく生活出来るよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの1日の過ごし方や、生活リズム等を理解するよう努めています。また、さらに良い生活が送れるよう、必要に応じてご本人に提案等もしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回以上行うカンファレンスや日々の申し送り等で情報を共有した上で、課題の改善が出来るよう、ご本人やご家族の意向に沿った形で、介護計画を作成しています。	家族や利用者の意向を反映させ、モニタリングや会議で出た意見を基に、短期4ヶ月、長期1年毎に見直して介護計画を作成し家族の承認を得ている。心身の状態に変化があった際には、その都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の日々の過ごし方、言動や健康状態を個別に記録し、ご家族や職員が状況を把握出来るようにしています。また、変化があった時に対応出来るよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態や、ご家族の状況、その時々ご要望に応じています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して、地域で暮らしていけるよう、地域の消防団と密に関わりを持ち、災害時等に協力してもらえるよう連携しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診状況を把握し、ご本人やご家族が希望する、かかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるようにしています。受診結果についても、ご家族と情報共有を行っています。	利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診継続を支援している。通院には、職員が付き添い、利用者の日々の状況を説明し、必要があれば利用者家族に同行してもらい、受診記録は、同行した職員や家族からの報告を基に作成し、常に利用者の状態を把握できるようにしている。協力医とは月2回の往診があり、月1回の定期的検診で利用者の健康管理を支援している。なお、協力医とは24時間体制で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師による医療連携の体制を整えています。急な体調不良時に、看護師に報告し、主治医と連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関との連携で、すぐに入院治療が出来る体制を取っています。入院中も、定期的に面会に行き、状態報告を受け、ご本人の心身の状況把握に努めています。また、ご家族との連絡を密に取り、退院に向けての支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についての説明をしています。ご本人やご家族の希望があった場合に、ご家族、主治医を協力し合い、終末期ケアを行っています。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用者と家族に説明し確認を得ている。重度化が認められた段階で利用者、家族、主治医と協議して方針を共有し、医療機関への入院や看取り等、希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメント委員会が中心になり、適宜、事故防止の検討や再発防止に努めています。また、応急手当や緊急時の対応についての研修を、定期的に行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	周辺地域と密に関わりを持ち、災害時の避難場所や避難経路を職員が把握しています。年2回、日中帯・夜間帯を想定した避難訓練を実施し、消防との協力体制の構築を行っています。	年2回（日中想定、夜間想定）消防署の指導と地域の人々の協力体制構築に向けて地域住民に参加を促し実施している。火災と地震のマニュアルが完備し、地震などによる家具などの転倒防止の安全対策や停電対策として発電機2機を購入して災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個性を大切に、個々に合った言葉掛けや接し方を行っています。入浴や排泄時は特に自尊心を傷つけないよう心掛けています。	利用者の気持ちを大切に、プライバシーに配慮した言葉掛けに心がけている。トイレ誘導や入浴時など、利用者の尊厳を重んじながら取り組んでいる。広報誌に掲載の場合は、個人情報や写真掲載などについての同意印を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の味付け等の希望があれば個別に対応しています。利用者様に合わせた声掛けを行い、日常生活の中で自己決定できる場面を一つでも多く出来るよう行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れのもと、一人ひとりの体調や気分に合わせて、無理強ひすることなく、ご本人の希望に沿って過ごしてもらえるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが楽しみな方に対し、時間をかけて洋服を選んで頂き、ご本人が納得してもらえるよう行っています。自己決定が困難な利用者様に対しては、色々な組み合わせでおしゃれを楽しめるよう、職員が配慮しています。		

グループホーム ひまわりの丘（ひまわりユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その季節の食材を取り入れたり、好みに合わせ、食材を変更したり工夫しています。	宅配業者から、カロリーや好み等に配慮した食材が献立表と共に届き、ユニット毎に職員が調理している。職員と利用者は一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。季節食は楽しい食事になるよう工夫を凝らし、誕生会には、ケーキなどが出され、また、3か月に1回はお寿司を注文して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる能力や嗜好等に配慮しています。食事は個々に合わせた食べ易い形状を工夫し提供し、バランス良く摂取し、栄養が確保出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持に努めています。義歯の手入れも、ご自身で出来るところまで行って頂き、不十分な部分を援助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標にし、排泄サインを把握したり、定期的に誘導しています。ご本人への声掛けは、周りに配慮し、ご本人が不快にならないよう配慮しています。	排泄チェック表、表情、態度などから把握し、適時にさりげなく、トイレに誘導し、自立排泄ができるよう支援している。夜は、利用者の要望や度合いにより、リハビリパンツとパッドで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを食べて頂くようにしています。また、腸の活動が良くなる体操等を行い、水分摂取量について気をつけ、便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、体調や状態に応じて柔軟に対応出来るよう行っています。個々の心身状態に配慮しながら行っています。	週2回以上、午前中に利用者の体調や希望に合わせて、入浴できるよう取り組んでいる。入浴スペースも広めに設置され、ゆったりとした空間で楽しく入浴ができるよう工夫している。入浴が苦手の利用者には、原因や理由を探し、無理のないよう個別支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣を把握し、個別の対応が行えるよう心掛けています。また、日中の環境を整え、夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋ファイルを作成しています。配薬間違い防止の為、服薬前の2重チェック体制や、薬袋の名前や日付等を復唱する事をマニュアル化しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを活かしながら、家事等のお手伝いをして頂くよう配慮しています。また、個別に買い物に行けるよう調整をしたり、外食に行くなどを行っています。		

グループホーム ひまわりの丘（ひまわりユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に、買い物に行かれる方がいたり、ご家族と外食される方もいらっしや、ご本人の希望に沿った支援を行っています。また、季節毎に行事で外出ができるよう行っています。	事業所の周辺は、観光名所も多く、散歩に出かけたり、緑化公園や運河公園などの花の名所や紅葉の名所にドライブに出かけて、四季の変化を感じてもらえるよう工夫して気分転換が図れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、その職員の付き添いで銀行へ行き、買い物等を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族や、知人の方への電話の使用をして頂いています。また、手紙が届いた際には、直接ご本人へ渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、全体的に明るく、清潔で落ち着いた空間を作れるよう掛けています。全室に、湿度・温度計を設置し、快適に過ごせるようにしています。通路に季節の行事等の写真を掲示しています。	食堂と居間は広くて明るく、食事スペースとくつろぎスペースに分け広さを生かし、テーブルソファ、テレビ、観葉植物等を配置し、温度や湿度も適切に管理され、過ごしやすい共有空間になっている。居間や廊下の壁には利用者が作成したぬり絵や書道、行事の写真、季節感を活かした飾りつけをしている。利用者は、体操をしたり、職員との会話を楽しんだりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を設置し、利用者様同士が関わりを持てるようにしています。また、一人でも、ゆったりと過ごせるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人やご家族のを話し合い、使い慣れた家具や、好みの物を持ってきていただき、自宅に近い落ち着いた雰囲気でお生活してもらおう工夫しています。	利用者が安心して今までの自分の生活が続けられるように馴染みの家具やベッドなどを持ち込み、家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。室温などは、職員が適正に管理している。また、内部から施錠ができ、プライバシーにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札をつけ、目印にしています。歩行ルートには手すりを設置しており、安心・安全に移動出来るように配慮しています。一人ひとりが自立した生活が出来るよう工夫しています。		